

2023年8月7日

# 2024年3月期 第1四半期 決算短信補足資料



証券コード：4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

# ハイライト

## 2024年3月期 第1四半期連結決算

売上高

- ✓ **160億円、前同比4.9%増加**  
医療用医薬品事業が毎年の薬価改定の影響を受けつつも堅調に推移

売上原価

- ✓ **85億円、前同比6.8%増加**  
原材料やエネルギーコストの上昇により、原価率は前同比0.9ポイント上昇

販売費及び  
一般管理費

- ✓ **58億円、前同比3.1%増加**  
営業経費、研究開発費の増加が影響

営業利益

- ✓ **17億円、前同比2.4%増加**  
売上総利益の増加による増益

## 2024年3月期 連結売上予想に変更はありません

業績予想

- ✓ **売上高 620億円、前同比2.5%増加**
- ✓ **営業利益 54億円、前同比5.7%増加**

# 損益計算書（連結）

単位：百万円	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	増減額	増減率
売上高	15,269	16,023	753	4.9%
営業利益	1,664	1,704	39	2.4%
経常利益	1,805	1,809	3	0.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,323	1,428	105	8.0%

## 増加要因

- ✓ 医療用医薬品事業を中心とした当社グループにおいても原材料やエネルギーコストの上昇による影響はあるものの、新製品の伸長やコスト削減の取り組みを継続することにより、前年同期から増収・増益となりました。

# 事業別売上高（連結）

単位：百万円	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品事業	13,646	14,420	90.0%	773	5.7%
アニマルヘルス事業	1,593	1,560	9.7%	△32	△2.1%
その他事業	29	42	0.3%	12	44.1%
合計	15,269	16,023	100.0%	753	4.9%

## 増減要因

- ✓ 医療用医薬品事業は、毎年の薬価改定の影響を受けつつも全般的に堅調に推移しました。2022年6月から販売を開始した「ドロエチ」が1,401百万円（同240.1%増）と前年に続き大きく増加しました。
- ✓ アニマルヘルス事業においては、畜産用薬品や飼料添加物を中心に売上高は前年並みを維持しました。
- ✓ 臨床検査、医療機器などの事業を展開しているその他事業については、毛髪ホルモン量測定キットの売上寄与もあり、売上高は増加しました。

# 主要製品売上高（医療用医薬品事業）

領域	区分	品目名	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期		2024年3月期計画		特記事項
			実績	実績	増減率(%)	見込	増減率(%)	
内科	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	2,859	2,599	△9.1%	9,268	△13.6%	薬価ダウンの影響は受けたが数量は維持
	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	2,040	2,062	1.1%	7,833	1.3%	想定通りの進捗
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	1,404	1,525	8.6%	5,578	3.4%	ガイドラインが着実に浸透し堅調に増加
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	390	398	2.0%	1,513	1.8%	想定通りの進捗
	GE	高血圧治療剤 アムロジピン	242	225	△6.9%	844	△6.3%	薬価ダウンの影響は受けたが数量は維持
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	2,259	2,576	14.0%	10,128	14.6%	想定通りの進捗
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	412	1,401	240.1%	4,165	13.5%	昨年6月発売 今期は4-6月の売上を計上
	AG	月経困難症治療剤 フリウエル	888	832	△6.2%	3,407	△2.4%	数量は増加しているが想定を若干下回る
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	214	440	105.0%	1,363	8.9%	出荷制限解除の影響等により増加
	先発品	経口避妊剤 アンジュ	228	194	△15.0%	799	1.9%	他社品への流出による減少
	先発品	切迫早産における子宮収縮抑制剤 子癇の発症抑制・治療剤 マグセント ※2	153	154	0.6%	750	19.6%	薬価は上昇したが分娩件数が減少していると推測
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※3	1,357	1,192	△12.2%	4,828	△3.4%	想定より他剤への切り替えが進行

※1 配合剤を含む

※2 硫酸マグネシウム製剤の合算値

※3 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

# 主要事業分野別売上高（アニマルヘルス事業）

単位：百万円

事業分野	2023年3月期 第1四半期	2024年3月期 第1四半期		2024年3月期計画	
	実績	実績	増減率(%)	見込	増減率(%)
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	1,041	965	△7.3%	3,832	△7.7%
動物用医薬品 (畜水産+CA <sup>※</sup> )	503	576	14.5%	2,490	5.1%

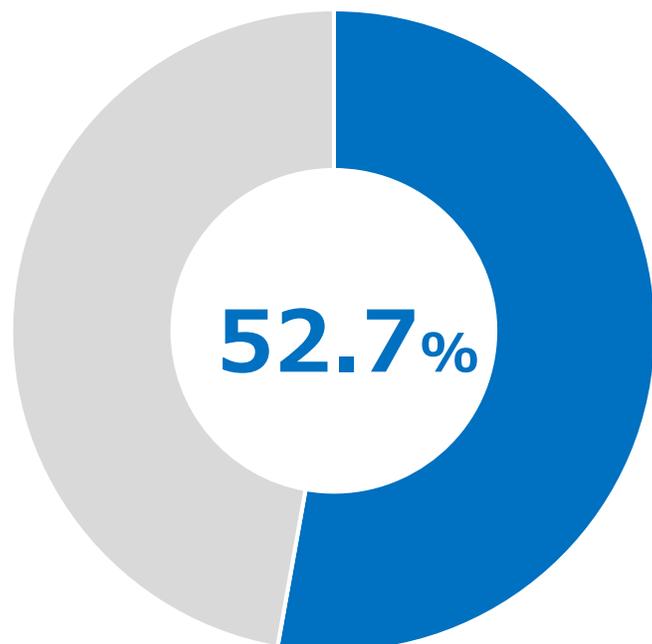
## 増減要因

- ✓ 飼料添加物の価格相場が軟調に推移していることから、飼料添加物の売上は減少しました。
- ✓ 動物用医薬品においては2022年11月に発売した「トリロスタン錠あすか」などが好調に推移したことなどから、売上は増加しました。

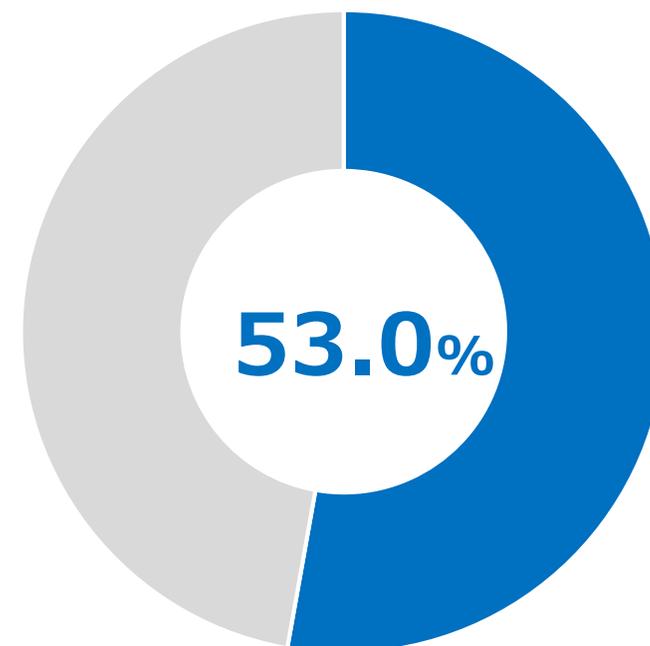
# 先発品比率

■ 先発品 ■ GE品

2023年3月期 第1四半期



2024年3月期 第1四半期

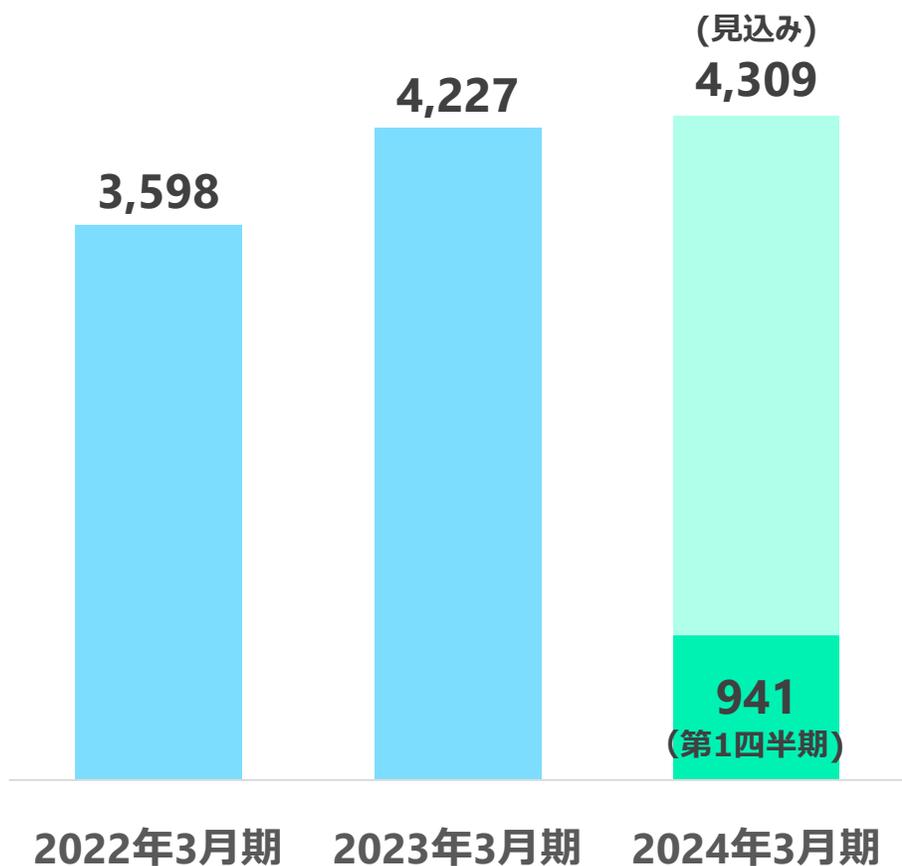


後発医薬品であるドロエチ配合錠の大幅な伸長がありましたが、レルミナ、リフキシマ、チラーチンの伸長により製品ミックスが改善し、先発品比率は0.3ポイント上昇しました。

# 研究開発の状況

## 研究開発費推移

(百万円)



## 2023年8月7日時点

開発番号(一般名)/領域・効能	状況
LF111 (ドロスピレノン) 避妊	Ph III
(オプション契約) PMS/PMDD治療薬 レナサイエンスにて開発中	Ph II (医師主導)
AKP-022 (レルゴリクス配合剤) 子宮筋腫	Ph I / II
TRM-270 (癒着防止材) 消化器領域・産婦人科領域	Ph III
L-105 (リファキシミン) 肝性脳症 (小児)	申請済み
AKP-009 (ルダテロン酢酸エステル) 前立腺肥大症	Ph II
AKP-017 (テストステロン経鼻剤) 泌尿器科領域	開発準備中

・AKP-009：再度Phase I 試験を予定